

## 板橋区における障がい者虐待の通報等受付状況

※令和3年度については令和4年3月末現在の件数となります。

### 1 受付場所別の内訳

受付場所	令和2年度	令和3年度
虐待防止センター	15	23
福祉事務所（3ヶ所）	1	6
健康福祉センター（5ヶ所）	0	3
障がい政策課	8	12
予防対策課	0	0
その他（東京都、警察等）	7	0
合 計	31	44

### 2 相談・通報・届出者の内訳

相談・通報・届出者	令和2年度	令和3年度
障がい者本人	8	13
家族・親族	3	3
近隣住民・知人	0	3
福祉サービス関係者	10	17
医療関係者	2	2
行政・教育機関	4	4
その他（労働局、警察、元支援員等）	4	2
合 計	31	44

### 3 被虐待者の障がい別内訳

※ 通報時本人より申告のあった種別（重複障がいは、それぞれに計上）

障がい	身体		知的		精神(発達含)		不明	
年度	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3
人数	6	11	12	23	13	17	0	0

### 4 虐待者の内訳

虐待者	令和2年度		令和3年度	
	総件数 (実件数)	虐待認定 件数	総件数 (実件数)	虐待認定 件数
養護者	13	5	24	6
障害者福祉 施設従事者等	12	2	13	1
使用者	3	2	1	0
その他	3		6	
合 計	31	9	44	7

5 令和3年度（12月以降）通報・相談のうち、虐待認定したケース事例※抽出（虐待程度については、「資料2-2 虐待の程度一覧表」参照）

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	養護者	身体的	養護者が本人に対して、叩く行為があり、過去にも数回あったことを認めた。	<p>【緊急性：有】</p> <p>叩かれる内容が、生命の危険に及ぶ状況ではないことを確認したが、養護者が本人の介護負担によるストレスで叩いてしまい、介護の継続が限界であるとの養護者主訴により、緊急性有りと判断した。</p> <p>【虐待認定：有】</p> <p>養護者が叩いていることを認めているため、虐待有りと判断した。</p> <p>【虐待程度：重度～中等度】</p> <p>早期に福祉サービスの導入等「保護の検討」「集中的援助」を検討。</p> <p>【対応】</p> <p>介護保険第二号被保険者であったため、介護保険でサービスの追加。短期入所を利用しながら、障害支援区分を認定し、本人の意向を確認しながら、障がい入所支援施設等についても検討することとした。</p>
2	養護者	身体的	認知症の養護者に本人が叩かれている。警察には相談していない。	<p>【緊急性：有】</p> <p>叩く内容が、生命の危険に及ぶ状況ではないことを確認したが、行為がエスカレートする危険性があるため、緊急性有りと判断。</p> <p>【虐待認定：有】</p> <p>養護者が本人に一方的に叩いている画像を確認したため、虐待有りと認定。</p> <p>【虐待程度：重度～中等度】</p> <p>早期に福祉サービスの導入等「保護の検討」「集中的援助」を検討。</p> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人、家族の意向に基づき、通所施設のみの利用であったため、計画相談支援の利用を開始。障害支援区分を取得し、短期入所を利用できる体制を整えている。</li> <li>・養護者は、高齢で認知症が進行している状況であり、建設的な会話が困難な状態であったため、高齢部門と介護保険サービス追加について検討。本人と養護者が極力二人きりの時間を作らないように体制を整え、関係機関において、継続見守りを実施する。</li> </ul>

6 令和3年度（12月以降）通報・相談のうち、虐待認定以外のケース事例※抽出

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	養護者	身体的	養護者の介護中に大怪我をしたため、入院。養護者の自己中心的な介護が原因に繋がった可能性が高いため、通報。	<p>【緊急性：有】</p> <p>養護者の介護中に本人が大怪我をしたため、入院。養護者の介護の仕方が原因であることを確認したため、早急に退院時支援を検討する。</p> <p>【虐待認定：不適切支援】</p> <p>養護者の介護力低下が顕著であるが、今後も介護の意向があること、退院にあたり、福祉サービスの導入に拒否がないことを理由に、虐待有無の判断はせず、不適切支援とした。</p> <p>【対応】</p> <p>養護者は施設入所の希望もあるが、条件とする入所施設（医療ケアを必要とする）の受入れ先の空きがないため、福祉サービスを利用し、在宅介護を継続。入所の申し込みを引き続き、進めていく。</p>
2	社会福祉施設 従事者	心理的	支援者の中で、①暴言のような発言をする②大きな声で威嚇する人が居る、などがあり、精神的に苦痛である。	<p>【緊急性：無】</p> <p>本人の生命の安全性は確保されているため、緊急性無しと判断。</p> <p>【虐待認定：不適切支援】</p> <p>調査の結果、支援において、日常的に言葉遣いが乱暴な職員がいることを確認。職員に自覚が乏しく、障がい種別に対する知識不足という状況が見受けられたため、不適切支援とした。</p> <p>【対応】</p> <p>事業所に改善報告書の提出を求め、今後について事業所内で①虐待防止研修②マニュアルの整備等の充実を図る旨を確認した。</p>